

# 「郷土の宝」保存・継承に力点

北國新聞社は10日、石川県内各地に点在する多彩な「遺産」の魅力をもとめた「石川ふるさと遺産」を刊行する。

「能登の里山里海」が今年、世界農業遺産認定から10年を迎え、2020年に金沢の「縁付金箔製造」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されたことを受けて、「郷土の宝」をどう保存・継承していくかに力点を置いた。

巻頭企画では著名人や有識者によるエッセーを中心として、豊富な写真やイラストとともに、世界農業遺産、無形文化遺産、日本遺産、いしかわ歴史遺産の価値を掘り下げた。

第1部「郷土の宝をつなぐ」

## 「石川ふるさと遺産」を刊行



は、第一線の研究者らが遺産の価値を解きほぐす。「習俗」は加能民俗の会の小林忠雄会長、「文化景観」は東四柳史明金

### 北國新聞社

沢学院大名誉教授、「自然景観」は石川県立自然史資料館の中村浩二館長と塚脇真二金大環日本海城環境研究センター教授、「技術」は山崎達文金沢学院大名誉教授が監修している。  
第2部「わがまちの食遺産」は、石川県と県内19市町の食文化や食文化の魅力を取り上げた。イラストはアマヤギ堂（金沢市）が担当した。

A4判552ページでケース付き上製本。定価は税込み1万9800円。書店や北國新聞社出版局で注文を受け付けている。

の魅力をたどり、石川県内「遺産」の魅力をたどり「石川ふるさと遺産」